



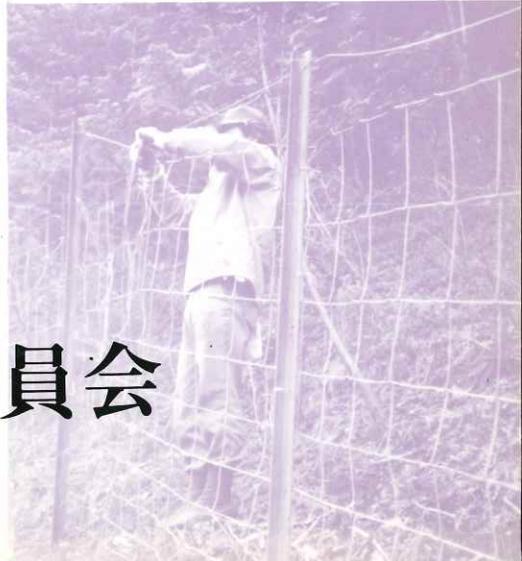
# 三重県の文化財保護

—昭和60年度—



1986. 3

三重県教育委員会



## 例 言

1. 本書は、三重県教育委員会が昭和60年度に実施した指定文化財等の保存事業を中心にまとめたものである。
2. 国指定史跡齋宮跡及び埋蔵文化財の保護事業については、それぞれ年報を刊行しているので参照されたい。
3. 文化財愛護活動のうち、2. 文化財愛護強調週間行事と、3. 文化財防火デー行事については、市町村教育委員会からの報告をまとめたものであり、資料1. 重要文化財建造物防災実態調査は、文化庁文化財保護部が該当する建造物の所有者に依頼して調査した重要文化財建造物実態調査から、防災についてまとめたものである。

## 目 次

I. 文化財の緊急調査	IV. 国指定文化財の保護
1. 歴史の道調査—伊勢街道—…… 1	1. 保存修理……… 6
II. 文化財の指定	2. 指定文化財管理……… 6
1. 県新指定の文化財……… 2	3. 防災施設……… 7
2. 県指定解除の文化財……… 2	4. 無形文化財の伝承……… 7
3. 市町村新指定の文化財……… 2	5. 重要文化財収蔵庫建設……… 7
4. 市町村指定解除の文化財……… 3	6. 特別天然記念物カモシカ保護…… 7
III. 文化財パトロール事業	7. 天然記念物保護増殖……… 8
1. 事業の概要……… 4	V. 県指定文化財の保護
2. 巡視報告……… 4	1. 保存修理……… 8
資料 1. 重要文化財建造物防災実態調査…… 21	2. 保存施設……… 8
2. 県新指定文化財調査報告書…… 22	VI. 文化財愛護地域活動
	1. 文化財愛護推進方策研究……… 9
	2. 文化財愛護強調週間行事……… 12
	3. 文化財防火デー行事……… 14
	4. 文化財講習会……… 20

# I 文化財の緊急調査

## 1. 歴史の道調査—伊勢街道— (国庫補助事業)

古くから文物や人々の交流の舞台となってきた道・河川などの交通路は、わが県土の歴史を知る上できわめて重要な意味をもってきた。

ところが、ここ数年来の道路改良事業、各種基盤整備事業等によって古道をはじめとする交通関係遺跡は急激に改変あるいは失なわれつつある。そのため「歴史の道」ともいうべき江戸時代以前の古道及び関連遺跡を周囲の環境を含めて、総合的かつ体系的に現状把握及び調査をし、県民が歴史に親しみ、県土の成り立ちをふりかえる一助にしようとするものであり、優れた関連遺跡等についての保護措置を講ずるための基礎資料を作成するものである。

### (調査の範囲) —伊勢街道ほか

四日市—津—伊勢—磯部—鳥羽 約110km

### (調査事項)

- (1) ○一里塚、宿場、茶屋、並木、石畳、常夜燈、道標、地藏、井戸、渡船場等の遺跡  
○社寺、札所、霊場等の歴史的名所及び庭園等の名勝  
○街道に関する古文書、絵図等
- (2) 家並み、街道及び関連遺跡等の古写真
- (3) 道の歴史的意義

### (調査指導)

樋田 清砂 県文化財保護審議会委員 (総括指導)  
平松 令三 同上・竜谷大学教授 (文化財)  
仲見 秀雄 県文化財保護審議会委員 (史跡)  
藤本 利治 皇学館大学教授 (歴史地理)

### (調査担当)

早川 雅章 海星高等学校教諭 (四日市市)  
大場 範久 石薬師高等学校教諭 (鈴鹿市)  
川合 隆治 河芸町文化財保護委員 (河芸町)  
小坂 宣広 橋北中学校教諭 (津市)  
浅生 悦生 一身田中学校教諭 (同上)  
井上 庸子 高田高等学校教諭 (同上)  
門 暉代司 松阪市役所 (松阪市)  
久松 倫生 同上 (同上)  
中野 イツ 明和町文化財保護委員 (明和町)  
中西 正典 下外城田小学校教諭 (小俣町)  
中川 埜梵 幼稚園教員養成所 (伊勢市)  
谷口 永三 伊勢市文化財調査委員 (同上)  
中井 利亮 三重県史資料調査員 (二見町)  
松本 茂一 鳥羽市文化財調査委員長 (鳥羽市)

### (調査担当)

西根新太郎 磯部町文化財調査委員 (磯部町)  
古市 忠造 同上 (同上)

### (関係市町村教育委会)

四日市市教育委員会  
鈴鹿市 同  
河芸町 同  
津市 同  
松阪市 同  
明和町 同  
小俣町 同  
伊勢市 同  
二見町 同  
鳥羽市 同  
磯部町 同

### (関係教育事務所)

北勢教育事務所  
中勢 同  
松阪 同  
南勢志摩 同

## Ⅱ 文化財の指定

### 1. 県新指定の文化財

種別	名称	員数	時代	所在地	所有者、管理者	指定年月日
有彫	木造薬師如来坐像	1 軀	平安	松阪市船江町564番地	薬師寺	昭61. 4. 28

### 2. 県指定解除の文化財

種別	名称	指定年月日	所在地	所有者、管理者	解除年月日
記天	桑名の大イブキ	昭45. 2. 25	桑名市東金井453	笠井義久	昭61. 4. 28

### 3. 市町村新指定の文化財

種別	名称	員数	時代	所在地	所有者、管理者	指定年月日
----	----	----	----	-----	---------	-------

#### (1) 桑名市

有書	藤原為家消息	1	鎌倉	桑名市北東方1362	松本正利	昭60. 12. 9
記天	ヒメタイコウチ			桑名市立花町1丁目	ヒメタイコウチ保存会	昭60. 12. 9

#### (2) 鈴鹿市

有彫	薬師如来立像	1 軀	平安	鈴鹿市白子町本町2-27	悟真寺	昭60. 4. 30
	観音菩薩立像	1 軀	平安	同上	同上	昭60. 4. 30
	阿弥陀如来立像	1 軀	鎌倉	同上	同上	昭60. 4. 30
	工 光明真言碑	1 基	鎌倉	同上	同上	昭60. 4. 30

#### (3) 津市

有建	山門	1 棟	江戸	津市栄町1-147-2	四天王寺	昭60. 5. 7
	彫 木造阿弥陀如来立像	1 軀	江戸	津市一色町525	正源寺	昭60. 7. 5
	彫 木造阿弥陀如来立像	1 軀	江戸	同上	同上	昭60. 7. 5

#### (4) 嬉野町

記史	釜生田辻垣内瓦窯跡	5	奈良	嬉野町大字 釜生田辻垣内	米田謙一 嬉野町	昭60. 8. 1
----	-----------	---	----	-----------------	-------------	-----------

#### (5) 明和町

民無	大淀の祇園祭		江戸	明和町大字三世古・ 東区・山大淀	三世古・東区・山大淀 各自治会	昭60. 2. 18
----	--------	--	----	---------------------	--------------------	------------

種別	名称	員数	時代	所在地	所有者、管理者	指定年月日
----	----	----	----	-----	---------	-------

明和町つづき

民	無	算所の祇園祭		安土 桃山	明和町大字 馬之上字算所	馬之上算所共進社	昭60. 2. 18
	無	前野浅間行事		江戸	明和町大字前野	前野自治会	昭60. 2. 18
	無	有爾桜神社かんど踊り		江戸	明和町大字有爾中	有爾中自治会	昭60. 2. 18

(6) 鳥羽市

民	数	答志寝屋子制度			鳥羽市答志町	答志町内会	昭60. 12. 19
	無	松尾の親取り子取り			鳥羽市松尾町	松尾町内会	昭60. 12. 19
	無	坂手の棒練り		江戸	鳥羽市坂手町	坂手町内会	昭60. 12. 19
記	史	九鬼家の廟所			鳥羽市鳥羽2丁目	常安寺	昭60. 12. 19
	史	安楽島賛遺跡		縄文～ 平安	鳥羽市安楽島町賛	宝塚エンタープライズ	昭60. 12. 19
有	古	松尾文書		江戸～ 明治	鳥羽市松尾町	松尾町内会	昭60. 12. 19

(7) 上野市

有	絵	如来荒神曼荼羅図	1幅	室町	上野市西高倉3543	徳楽寺	昭61. 3. 17
---	---	----------	----	----	------------	-----	------------

(8) 名張市

有	古	新田開発関係文書	2通	江戸	名張市丸之内35-1	名張市新田区 名張市立図書館	昭60. 4. 4
---	---	----------	----	----	------------	-------------------	-----------

(9) 島ヶ原村

有	古	伊賀山城境論対決覚帳	1冊	江戸	島ヶ原村4123	松村亀蔵	昭60. 12. 10
---	---	------------	----	----	----------	------	-------------

(10) 紀伊長島町

有	古	安永九歳御検地帳写	7冊		紀伊長島町	東睦郎 郷土資料館	昭59. 10. 1
	彫	助体庵石地蔵	1軀	江戸	紀伊長島町新町	竜谷顕孝	昭60. 11. 20
	彫	下河内観音石仏	1軀	江戸	紀伊長島町下河内	区長	昭60. 11. 20

4. 市町村指定解除の文化財

種別	名称	指定年月日	所在地	所有者、管理者	解除年月日
----	----	-------	-----	---------	-------

(1) 亀山市

有	建	亀山演武場	昭25. 12. 1	亀山市本丸町573	亀山市剣道協会	昭60. 4. 24
---	---	-------	------------	-----------	---------	------------

### Ⅲ 文化財パトロール事業

#### 1. 事業の概要

三重県下の指定文化財及び埋蔵文化財包蔵地を巡視し、常時、文化財の管理、保存状況を把握し、適切な処置を講じて文化財の保護の万全を期することを目的として、各教育事務所毎に文化財調査員を任命して調査活動を行っている。

建造物・天然記念物の巡視、保護管理指導には、57年度からチェックポイントカードにより調査の徹底をはかっている。

#### 2. 巡視報告

(天然記念物・名勝)

名 称	所 在 地	点 検 結 果
西村広林宅跡のフウ樹	多 気 町	標示板・説明板無し。駐車場となっており保護の必要がある。
柄ヶ池湿地植物群落	〃	〃 〃 。クチナシ群落減少、雑草が多い。
不動院のムカデラン群落	松 阪 市	標柱あり。説明板なし。雑草の侵入が増加。
水屋の大クス	飯 高 町	標示板・説明板あり。異常なし。
斎宮のハナショウブ群落	明 和 町	〃 〃 。セイタカアワダチソウ、セリ等が侵入。
大杉谷	宮 川 村	〃 〃 。異常なし。
大杉谷の大杉	〃	〃 〃 〃 〃 。
矢頭の大杉	一 志 町	異常なし。
国津神社のケヤキ	美 杉 村	〃 。幹が裂けているが補強されている。
三多気の桜	〃	ヤドリ木が繁茂。
柳谷の貝石山	美 里 村	異常なし。
椋本の大ムク	芸 濃 町	〃 。
長徳寺の竜王桜	〃	〃 。
榊原の貝石山	久 居 市	一部崩壊している。
真福院のケヤキ	美 杉 村	異常なし。
東平寺のシイノキ樹叢	〃	〃 。
美鹿の神明スギ	多 度 町	〃 。
石薬師の蒲ザクラ	鈴 鹿 市	一部枝の先枯れがある。
長太の大クス	〃	〃 。
川俣神社のスタジイ	〃	異常なし。
奥郷の寒椿	菰 野 町	〃 。
宗英寺のイチヨウ	亀 山 市	〃 。
白子の不断桜	鈴 鹿 市	〃 。
鈴鹿山の鏡肌	関 町	〃 。
小岐須の屏風谷	鈴 鹿 市	〃 。
多度のイヌナシ自生地	多 度 町	〃 。
御池沼沢植物群落	四 日 市 市	セイタカアワダチソウ、メリケンカルカヤ等の侵入がある。
西阿倉川アイナシ自生地	〃	周囲の高木による圧迫がある。
東阿倉川のイヌナシ自生地	〃	コナラ、エノキ等の影響で日当たりがやや悪い。
西の城戸のヒイラギ	鈴 鹿 市	上部の枝がほとんど枯れている。
アイナシ	〃	竹の侵入がある。

名 称	所 在 地	点 検 結 果
金生水沼沢植物群落	鈴 鹿 市	保護増殖事業実施中。
坂本のボダイジュ	藤 原 町	枝の枯損が目立つ。
篠立の風穴	〃	異常なし。
長瀬のヒダリマキガヤ	名 張 市	〃 。
花垣のヤエザクラ	上 野 市	〃 。
飛鳥神社樹叢	尾 鷲 市	〃 。（ノシランの自生もみられた）
豊浦神社樹叢	紀伊長島町	〃 。
島勝神社樹叢	海 山 町	〃 。
九木神社樹叢	尾 鷲 市	〃 。
大島暖地性植物群落	紀伊長島町	〃 。
法然寺のテツギョ	尾 鷲 市	産卵せず。（ウナギによる幼魚の食害のおそれあり）
鈴島暖地性植物群落	紀伊長島町	黒松枯死。（他は異常なし）
佐波留島	尾 鷲 市	異常なし。
長島神社樹叢	紀伊長島町	〃 。

(美術工芸品)

日神石仏群付種子碑ほか3基	美 杉 村	異常なし。
国津神社十三重塔	〃	〃 。
延命寺石棺	一 志 町	〃 。
五大明王像	上 野 市	〃 。
木造聖観音立像	名 張 市	〃 。
木造十一面観音立像	〃	〃 。
木造弥勒如来坐像	〃	〃 。
木造薬師如来坐像	〃	台座に落ちこみ。
黒漆厨子（文明12年）	〃	異常なし。
木造阿弥陀如来坐像	伊 賀 町	虫喰あり。
石造燈籠	名 張 市	異常なし。
岩根の磨崖仏	上 野 市	〃 。
木造虚蔵菩薩坐像	〃	〃 。
木造薬師如来坐像	海 山 町	〃 。
木造薬師如来坐像	尾 鷲 市	〃 。

(建 造 物)

銅鳥居	桑 名 市	上部やや腐蝕
猪田神社本殿	上 野 市	一部破損。
石造九重塔	青 山 町	異常なし。
木造閻魔堂	上 野 市	内陣床板破損。
射手神社十三重塔	〃	異常なし。

(有形民俗文化財)

越賀舞台	志 摩 町	屋根の傷み激しい。
参宮講看板付俵屋看板	青 山 町	異常なし。
八鬼山町石及び石造三宝荒神立像、石造不動明王立像	尾 鷲 市	〃 。

## IV 国指定文化財の保護—国庫補助・県費補助事業—

( ) 内は事業主体者

### 1. 保存修理

(1) 建造物 専修寺如来堂 (津市 専修寺)

真宗高田派本山専修寺如来堂は、軒先の不陸、屋根全面のいたみ、縁板の腐れ等が目立ってきているため、昭和57年度から保存修理事業に入り、本年度は、瓦の取りはずし、野地板解体、ジャッキアップによる不同沈下の是正、柱石の据直し等を実施した。

(2) 書跡・典籍 本居宣長稿本類 (松阪市 鈴屋遺跡保存会)

本居宣長自筆稿本類は、破損、欠損、虫蝕等がひどく、このため昭和56年度から修理を行った。本年度は、修理した稿本類を納入する桐製保存箱及び宣長自画像を納める黒桐漆塗台の外箱を新調し、継続事業を終了した。

(3) 史跡 上野城跡 (上野市)

上野城跡の石垣は、構築後約 400年を経て、随所に石垣のはらみ、波打ちが生じ崩壊の危機が生じたため、昭和55年度から7か年計画で復元工事をすすめ、本年度は、旧筒井城石垣 164.6㎡の石垣積替と石垣現況側面図を作成した。

(4) 史跡 正法寺山荘跡 (関町)

昨年度検出された中央土壇北側の通路及び石段の復元、遺跡北半分の園路設置、土塁の修復、植栽を実施した。また、遺跡北西部 160㎡の発掘調査の結果、四脚門跡、土塁基底部石垣、石積排水路を検出した。

(5) 史跡 水池土器製作遺跡 (明和町)

奈良時代の土器焼成壇群が初めて検出され、斎宮跡との関連を考えるうえで貴重な遺跡であり、昭和58年度から整備を進めてきたが、本年度は、便所を新設した。

(6) 伝統的建造物群 関町関宿 (関町)

東海道宿場町の旧状を今によく伝える町として、昭和59年12月東の追分から西の追分まで約 1.8km、25haが重要伝統的建造物群保存地区に選定され、本年度から修理が開始された。本年度は2戸の半解体修理と1戸の屋根葺替部分修理を実施し、街道に面する部分はそれぞれアーチ型窓枠、格子、摺上げ戸を設置し、特徴を生かして復元した。

### 2. 指定文化財管理

(1) 建造物 地藏院愛染堂 (関町 地藏院)

建物には、火災報知器、感知器が設置されているが、設備の老朽化、旧式化しているため、配線、感知器の保守点検を行い、一部取替えを実施した。

### 3. 防災施設

#### (1) 建造物 専修寺御影堂ほか (津市 専修寺)

真宗高田派本山専修寺は、国宝2件を含む多数の重要文化財を有しながら、火災等に対する備えが不十分なため、昭和57年度から7か年計画で御影堂を中心に防災施設を設置してきた。本年度は、放水銃1基、消火栓9基を設置したほか、受信機、感知器等を備えた。

#### (2) 伝統的建造物群 関町関宿 (関町)

保存地区内の4か所(東の追分、西の追分、御馳走場、地藏院)に、それぞれ地区の特色を生かした説明板を設置したほか、要所に3基の石製標柱を建てた。特に御馳走場の前面は、敷石、砂敷等により整備を施した。

### 4. 無形文化財の伝承

#### (1) 無形文化財 伊勢型紙 (鈴鹿市)

伊勢型紙技術保持者の指導のもと、中堅技術者を対象として伝承者の養成及び資料の収集に努めるもので、本年度は第5期3年次にあたり、伝承者14名による復刻作品及び糸入れの研修、型紙使用の摺絵陶器の見学を行った。

### 5. 重要文化財収蔵庫建設

#### (1) 考古資料 伊勢神島祭祀遺物 (鳥羽市 八代神社)

昨年度保存処理加工した八代神社所蔵の祭祀遺物を保存、収蔵するため、床面積26.4㎡の収蔵庫を建設した。建設にあたっては、外気の直接の流入を防ぐため前室を設けたり、換気口には通風中の塩分を除去するためフィルターをつけるなどの注意を払った。

### 6. 特別天然記念物カモシカ保護

近年、人工造林地の幼齢木に対するカモシカの食害が増加し社会問題化しているため、環境庁・林野庁・文化庁の三庁協議にもとづいて、種の指定から生息地による指定へ移行するための経過措置として保護地域設定がすすめられ、保存のための調査とともに食害防除のための防護柵設置を行った。

#### (1) 通常調査 (三重県)

三重県文化財調査員に依頼し、鈴鹿山系保護地域及び大台系におけるカモシカの生息状況、生息環境を定期的に巡視した。

(調査員) ( )は担当地区

清水 実(藤原町)・伊藤 勝義(藤原町)・辻 賢二(北勢町)・出口 幸雄(北勢町)  
木村 裕之(大安町)・清水 義孝(大安町)・伊藤 武吉(菰野町)・森 豊(菰野町)  
松永 良郷(四日市市)・寺田 卓二(四日市市)・瀬川 学(鈴鹿市)・奥埜 清道(鈴鹿市)  
中川 宗夫(宮川村)・福居 里平(宮川村)・小林平八郎(宮川村)・辻本 恵計(宮川村)  
川端 徳雄(海山町)・上村 克利(海山町)・山本 和彦(尾鷲市)・清水 善吉(尾鷲市)

(2) 特別調査 (三重県)

カモシカ生息の基盤をなす環境について、滋賀県と同時に鈴鹿山系保護地域の森林概況、土地利用状況、食害等の調査を行った。調査にあたっては(財)日本野生生物研究センターに委嘱し、報告書にまとめた。

(3) カモシカ食害対策 [防護柵の設置]

(県農林水産部) 鈴鹿地区	1 か所	2,670m	(飯高町)	5 か所	5,042m
(宮川村)	20 か所	14,535m	(尾鷲市)	4 か所	3,670m
(海山町)	6 か所	5,890m	(紀伊長島町)	1 か所	502m

## 7. 天然記念物保護増殖

(1) 金生水沼沢植物群落 (鈴鹿市)

昨年度に引き続き雑木の伐採、地下水位の観測、植生変化の調査、湿地内の測量図作成等を実施した。昨年度設置したセキの効果は顕著にあらわれ、木本類(イソノキ等)の立ち枯れが始まったが、ほ場整備事業に伴うポンプ設置により、田植え期、夏期の沼沢乾燥が目立つため、今後ポンプからの導水等を検討する。

## V 県指定文化財の保護—県費補助事業—

( ) 内は事業主体者

### 1. 保存修理

(1) 有形文化財〈建造物〉白山比咩神社本殿 (白山町川口 白山比咩神社)

慶長20年(1615)建立の屋根銅板葺、春日造の社で、軒回りの彫刻と彩色に桃山期の特徴がよくあらわされており、昭和31年12月5日県指定されたが、柱土台の腐蝕、屋根破損、彩色の傷み等甚しく、昭和60年、61年度の2か年で修理を施す。今年度は地元負担により、建物の覆屋を付設したほか、補修事業として、柱据え直し、野地解体修理、屋根栓皮葺替え等を実施した。なお、屋根については、銅板葺を取りはずし建立当時に復した。

(2) 有形文化財〈建造物〉白山比咩神社本殿 (白山町南出 白山比咩神社)

昭和32年3月29日県指定の栓皮葺、春日造の社で、桃山末期の特徴を示している。建立年代については、元和8年(1622)頃と推定される。事業は単年度で、鬼板、箱棟、鯉木等の取り替え及び屋根一部葺替えを行った。

### 2. 保存施設

(1) 有形文化財〈彫刻〉木造仏頭ほか (志摩町和具 観音堂)

和具観音堂には、昭和32年3月29日県指定の木造仏頭(平安時代後期)と昭和48年3月31日県指定の木造十一面観音立像が安置されているが、防火防災の備えが不十分なため、現観音堂を増築し、耐火建物、防火扉、自動火災報知器設備等を設置した。

## VI 文化財愛護地域活動

### 1. 文化財愛護推進方策研究

〈地域ぐるみの文化財愛護と奉仕活動〉

菰野町教育委員会

#### 1. 実践研究の場の地域特性

三重県の北中部を南北に細長く鈴鹿の山並が連なり、その中央部の東麓に菰野町がある。今回の実践の場である杉谷地区は菰野町の北部に位置し、人口 793人、戸数 197戸で国道 306号線（旧巡見街道）沿いに展開した集落である。

区の歴史は縄文時代にさかのぼり、古墳群、中世城趾、寺院跡など数多くの文化財が現存する。その中で昭和38年、字南谷の山林中に古塚が発見され、県において発掘調査が行われ、県下有数の中世墓であることが確認され、県指定文化財杉谷中世墓として指定を受けた。この調査の際に区をあげて発掘作業に参加、奉仕して遺跡の保護に努力し、また、昭和43年には廃絶状態にあった嘉例踊り（町指定文化財）を復活させた。このほか、尾高の町文化財収蔵庫、民具資料庫の設置、管理等を協力するなど文化財に対する意識の高い土地柄である。

#### 2. 実践研究の当初のねらい

杉谷区は地域特性で述べたように非常に文化財に対する感心の高いところである。昭和46年には地区に伝承されている嘉例踊りが町の無形文化財に指定を受けている。しかし、この地区もその継承者となる若者が減り、後継者の育成には苦慮しているところである。また、この地区には、県指定の杉谷中世墓のほか、数多くの遺跡が現存する。ところが近年の古美術ブームにより愛好家等のマニヤによる遺跡の盗掘が横行し、遺跡の破壊が進み、行政サイドだけでは対処できなくなった。そこで、地域ぐるみの文化財愛護運動を実施することにより、郷土の文化遺産を再認識してもらい、文化財の保護、伝承、管理はもとより地域の連携をはぐくみ、地域全体の生活文化の向上をはかる。そのうえ、文化財愛護という統一的課題のもとに三世代が集うことは世代間の融和をはかり、それは広義には社会教育の一環としての生涯教育の一助となる。

事業	対象	期間
郷土研究会	区民	月1回
奉仕活動	区民	7月7日 8月24日
体験学習	小中学生	8月3日
文化財学習会	小中学生	7月28日 8月11日 12月26日

- (1) 座談会、学習会を進めるなかで、地区民の融和をはかり、かつ、未発見、未確認の遺跡を把握し、周知の遺跡を再確認することにより、文化財に対する意識の高揚をはかる。
- (2) 遺跡の現地確認等の基礎調査を専門のスタッフによって実施し、今後の保護活動の資料とする。また、文化財の保護の重要性を啓蒙する。
- (3) 嘉例踊りの体験学習をととして、次代の文化財愛護活動後継者を育成していく。
- (4) 周知の遺跡等を環境整備し、保護していくために清掃奉仕及び供養をすることにより、自らの体験のなかから文化財愛護の精神を理解させるとともに世代間の連携をはかる。

#### 3. 実践研究の概要

- (1) 郷土研究会

6月13日に初会合を開き、講師に町社会教育指導員の



佐々木一氏を迎えて、地区内の文化財についての講義・座談会形式の話し合いと進め、未確認の文化財の情報収集を実施。3回めの8月2日からは室内からフィールドに変わり、現地調査に移行。61年の2月まで計7回の金石調査を行った。



## (2) 奉仕活動

地区の奉仕活動の一つに共同墓地の清掃奉仕がある。この時期に合わせて老人会、子ども会に区から呼びかけて、7月7日、8月24日の2回、杉谷中世墓、七ツ塚古墳群の清掃奉仕、佐々木一氏の講話と供養を実施した。

## (3) 体験学習

年に一度のお盆に演じられる嘉例踊りを実施後の8月3日、虫干しと整理を兼ねて、地区の子ども会と嘉例踊り保存会の協力を得て、佐々木一氏に嘉例踊りの由来、伝承について話をしてもらい、その後、嘉例踊り保存会の方々の指導を受け、参加した子ども達に踊りの装束を実際に着付けて踊りの仕種を練習した。

## (4) 文化財学習会

専門家による杉谷地内の文化財の基礎調査を行い、小中学生を対象に講演会を実施した。

### ① 7月28日

尾高の観音堂について、愛知工業大学助教授岡野 清氏に調査依頼し、観音堂建立の仏教の時代背景と建築様式について講義していただいた。

### ② 8月11日

尾高高原の植物相について、名古屋市立保育短大長南川 幸氏に調査依頼し、尾高のクロマツ精英樹、熊野神社の社叢について講義していただいた。

### ③ 12月26日

杉谷地内に現存する埋蔵文化財について、菰野町立八風中学校教頭石井 剛氏に講義していただき、その後、七ツ塚古墳群を見学した。

## 4. 実践研究の成果

### (1) 郷土研究会

昭和51年に結成され、その後活動が中断していた「杉谷郷土を守る会」のメンバーを軸に佐々木一氏を助言者として、有志16名で座談会形式による研究会が開始されたが、「地域内に現存する文化財の基礎調査を実施したい」という声が会の中からはあがり、先づ、金石調査を手初めに進めることとなり、メンバーを6班に分けて計7回現地踏査を行い、その結果、調査カードは79枚になった。

このように会を進めるなかで、受講者が聞き手という受動から調査者という能動へと自主的に文化財の学習活動が移行していった。

### (2) 奉仕活動

奉仕活動の実施時期をお盆前の区民総出の共同墓地の清掃奉仕に合わせて、古墳・中世墓の清掃奉仕作業と供養を実施した。その中で、祖父母が孫に、親が子に先祖の墓を大切に守っていく意味を解き、名はないが、地域に残されている、古墳・中世墓も同じ墓であり、その墓も決して他人のものでなく自分たちの先祖であるという意識づけをするなかで、文化遺産を保護していくという認識をし、共通の話題である文化財愛護をとおして、世代間の融和をはかった。

### (3) 体験学習

嘉例踊りの保存会加入者は成人男子に限られ、女子はもちろん、子供も参加することができなかった。今

回は小中学生で男女の区別なく体験学習に参加させた。学習をすすめるなかで、「なぜ嘉例踊りが演じられ現在まで伝承されたのか。成人男子のみ参加するのはなぜか。」といった質問が次々に飛び出した。また、指導する大人の方も後継者の育成に少なからず手ごたえを感じることができた。

#### (4) 文化財学習会

地元の文化財について、専門の先生が調査及び講演会を催すことは、過去に事例が少なく、普段、何げなく見過ごしてきた事柄が学術的評価として述べられ、他にない貴重な文化遺産であるということを知り、改めて自分たちの身近な文化財の重要性を認識することができた。

これらの事業を計画するにあたり、区長、地区公民館主事等と話し合い、同地区で6年前から実施している「ふるさと運動」の事業に組み入れて、実行していくことで同意をいただき、地区内で組織している各種団体に協力を依頼した。その結果、この事業に区民の方々がほぼ全員参加した。また、事業の総集として、「ふるさと杉谷」として一冊の本にまとめ、各戸に配布することができた。

### 5. 実践研究を通して反省又は特記すべき事項

#### (1) 郷土学習会

研究会の再編成及び金石文調査と事業の成果はあったと思われる。しかし、会をリードし、助言していくスタッフの問題、会員の構成が高齢者中心で若者、婦人の参加が少なかったこと、また、調査結果を公開する方法として、一冊の本の中に載せるにとどまってしまった。

#### (2) 奉仕活動

地域ぐるみの活動として、区民総出による遺跡の清掃奉仕と供養を実施したが、計画段階で整備事業の一つに遺跡周辺の案内板の設置が提案されたが、「遺跡の位置を明確化させることによって、盗堀が増加するのではないか」という意見が反映され、延期された。

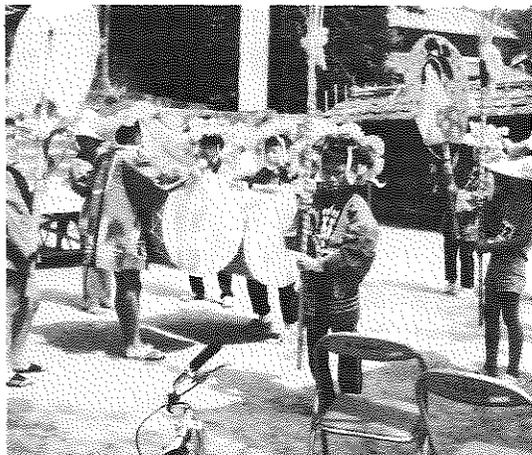
このことから、もう一步踏みこんだところの文化財愛護運動を考えなければならない。

#### (3) 体験学習

今回、初めての試みとして、子ども会による嘉例踊りの体験学習を実施したが、現時点でかかえている問題を解決するためには、この事業を継続して行うことはもちろん、継承者は男子のみという特殊性なども抜本的に見直していく必要がある。また、参加者以外の方々も直接ではないが、側面から協力しているという自負をもたせるような学習活動にしていかなければならない。

#### (4) 文化財学習会

地区外の専門家による学習会によって地元の文化財の重要性は認識されたが、この意識を今後の文化財愛護活動へ継続させる方法まで至らなかった。



杉谷地区を対象とした地域ぐるみの文化財愛護活動は、区長以下、各種団体の協力を得て実施したが、今回の場合、どうしてもリーダーにより追従的に区民の方が参加したという域からは脱しきれなかった。それは、案内板の設置問題で表面化したように、区民一人一人の文化財の意識があれば実施できたのではないかということが伺えた。

しかし、一方では自主的な愛護活動団体の「杉谷郷土を守る会」が再編成され、また、非公式ではあるが嘉例踊りの継承者養成を目的にジュニアによる「杉谷の文化財を守る会」の発足計画があるように聞く。このように単年度の事業ではあったが、今後も継続的に実施されれば、問題も解決されていくと思われる。

## 2. 文化財愛護強調週間行事 11月1日～7日

### (1) 県

実施事項	実施内容
三重県文化財講習会 ・ 現地説明会 文化財講演会 ・ 現地説明会	民家建築、関宿伝統的建造物群、他 古代の国民的ロマンとしての齋宮、齋宮跡

### (2) 市町村 昭和60年11月8日付けの通知に対する各市町村教育委員会の実施報告による。

実施市町村名	実施事項
桑名市	市指定文化財調査、東部地区文化財めぐり、城東地区文化財めぐり
多度町	町民文化祭での展示会
北勢町	子ども文化祭、親子史跡めぐり、複製美術品展、当地出土埋蔵文化財展
東員町	史跡見学会、文化祭での古い資料展示会
藤原町	町民文化祭での町指定文化財ビデオ視聴会
大安町	町文化祭での民俗資料展示
菰野町	産業文化祭での芸能発表会、民俗関係展示
朝日町	文化祭での文化財展示・広報紙での文化財紹介
鈴鹿市	文化財講演会、文化財めぐり、郷土資料室開設
亀山市	郷土資料展、文化財・史跡案内板・標柱設置
関町	県文化財講習会、関宿重要伝統的建造物群案内説明板設置、文化財調査委員会、町民文化祭
津市	郷土史教室・郷土史講座への協力、史跡の案内、郷土の街道を訪ねて
久居市	史跡めぐりサイクリング、広報紙での文化財紹介、文化祭での文化財展示
河芸町	文化財保護審議会、民俗民芸品の修理及び展示、「あかり」展示会
美里村	文化展、芸能発表会
安濃町	町民文化祭での古墳発掘調査説明会と郷土資料展示
香良洲町	ふるさと香良洲を探る町民文化祭
嬉野町	ミニ埋蔵文化財展、芸能発表、常夜燈・祭旗・氏神等の調査
美杉村	村文化祭
三雲村	史跡めぐり、広報紙での文化財紹介、文化財の防火点検

実施市町村名	実 施 事 項
松 阪 市 飯 南 町 飯 高 町 多 気 町 明 和 町 大 台 町 勢 和 村 宮 川 村	本居宣長旧宅跡公開 文化財調査、郷土史教室 町内史跡めぐり、町文化祭、芸能発表会、町内めぐり 発掘調査現地説明会、町民展での郷土史料展示、史跡めぐり、五桂燭鼓踊り実演 町文化祭での文化講演会、斎宮跡発掘出土品展示、町文化財古文書等展示 町文化祭、史跡探訪 村文化祭での昔の生活用具展示 昔の遊び再現学習会
伊 勢 市 鳥 羽 市 二 見 町 大 宮 町 度 会 町 南 勢 町 南 島 町 大 内 山 村 志 摩 町	広報紙に文化財の紹介 郷土民具展、音楽芸能発表会 郷土史古文書研究会、俳句大会 町文化展、町史編さん 埋蔵文化財展示会 町民俗資料館の開放 文化財めぐり 郷土史跡めぐり、村民文化祭での古文書展 文化財現地調査と古文書解読研修、文化財パトロール、文化財調査委員会、文化財講演会
上 野 市 名 張 市 阿 山 町 大 山 田 村 島 ケ 原 村 青 山 町	文化財研修会 観阿弥祭、文化財調査 指定文化財看板点検・整備、文化財史跡めぐりウォークラリー 埋蔵文化財展 広報紙による周知、文化財研修会 埋蔵文化財展覧学会、出土文化財について研修、文化財研修会参加、町文化財専門委員会
尾 鷲 市 海 山 町 紀 伊 長 島 町	文化財特別展 文化財調査委員会、指定文化財パトロール 文化財めぐり、当郷開基碑発掘、はまゆう群落復元運動、町文化財指定
熊 野 市 紀 和 町 紀 宝 町	県指定無形民俗文化財「二木島祭」調査、元禄年間建築社寺調査 民具・農具、紀州鉾山資料等の展示会、次期町指定候補文化財の整備 史跡めぐり、広報活動

### 3. 文化財防火デー行事 1月26日 ー第32回ー

昭和60年12月17日付けの通知に対する各市町村教育委員会の実施報告による。

#### 桑 名 市

実施事項	実 施 内 容
防火訓練	1月25日 大福田寺拜殿より出火の想定。消防署出動、氏子・自治会等で消火訓練。参加者30名。
点検依頼	市指定文化財の所有者・管理者に対し、防火等の点検依頼。

#### 多 度 町

防火訓練	2月26日 多度神社神楽殿より出火の想定。神社職員・青少年会館職員で消火・放水訓練の実施。参加者21名。
防災説明	3月4日 多度神社において、消火器の取扱い、要領及び避難誘導要領の説明会。

#### 四 日 市 市

防火訓練	1月22日 県指定「毘沙門天立像」 23日 国指定「十六間四方白星兜鉢」 24日 国指定「阿弥陀如来立像と胎内納入文書」 ♪ 国指定「不動明王立像」 25日 国指定「慈恵大師坐像」他 ♪ 市指定「地藏菩薩坐像」 26日 県指定「鯨船山車」	消防車両・消防署員・地元消防隊員出動。 関係者参加。 文化財搬出訓練、消火訓練実施。
査 察	1月20日 国指定「十六間四方白星兜鉢」 県指定「鯨船山車」、「大入道山車」 市指定「古萬古」3点、「泗水の井戸」、「仏涅槃図」 「大日如来坐像」 1月21日 国指定「阿弥陀如来立像と九重の守」 県指定「陶製燈籠」、「毘沙門天立像」 市指定「天春文庫」他、「御館獅子舞」、「北野町獅子舞」 1月22日 国指定「不動明王立像」 県指定「銅鐸」 市指定「地藏菩薩坐像」、「薬師如来坐像」、「大念仏」 「六名町村方古文書」 1月23日 県指定「阿弥陀如来坐像」、「仏頭」 市指定「四郷村役場」、「水沢堂ヶ山野境紛争判決文書」 「お諏訪おどり」 1月24日 国指定「慈恵大師坐像」 県指定「誕生釈迦仏立像」、「地藏菩薩坐像」、「薬師如来立像」、「仏涅槃図」 市指定「観音寺山門」(以上観音寺) 県指定「大般若経」、「真源大沢禅師像」、「禅源大濟禅師像」	消防署本部職員1～2名 名消防署職員1～2名 社会教育課職員1名の3 ～5名により、消火、防火施設等の査察実施。

	市指定「広山和尚画像」、「万葉史跡と聖武天皇社」、「室性寺本堂」、「経塚公園」、「市場町獅子舞」、「仏涅槃図」 1月25日 国指定「阿弥陀如来立像と胎内納入文書」 県指定「蝠堂民俗玩具」、「地藏菩薩坐像」 市指定「狛犬」、「志氏神社古墳出土品」、「志氏神社古墳」
広報活動	宣伝カーにて市内巡回。(1月20～1月25日)

菰野町

防火訓練	1月23日 明福寺庫裏台所より出火の想定。 1月24日 大日堂内のろうそくが倒れ出火の想定。	タンク車・ポンプ車・救急車、消防署員出動。 消火訓練実施。参加者18名。
防火査察	1月16日 町内文化財の防火査察。大日堂、尾高観音、明福寺、郷土資料館、禅林寺、寒椿、見性寺、尾高観音前収蔵庫、福王神社、菰野ふるさと館の10ヶ所。 1月21日	
広報活動	広報車、有線放送によるPR。報道機関への文化財防火行事の報道依頼。防火広報板の掲示。	

鈴鹿市

消防訓練	1月25日 神宮寺本堂より出火の想定。神宮寺住職による消防訓練、消火器取扱い訓練、消防隊の訓練を実施。参加者約50名。
防火査察	龍光寺、林光寺、太子寺、神宮寺、南陽寺、妙福寺について、火気使用状況、消防設備設置状況、文化財管理状況を把握、改善事項等指摘。

亀山市

防火訓練	1月24日 市指定文化財侍屋敷土蔵前より出火の想定。消防署による消火と重要物搬出訓練を実施。参加者 消防署職員、市教委関係者、侍屋敷関係者。
防災・防火指導	1月21日 消防署より文化財所有者に対し、防災・防火対策の指導。

関町

防火訓練	1月27日 関地藏院愛染堂より出火の想定。亀山消防署関分署より出動、自治会も参加して消火訓練と搬出訓練、消火器等の点検を実施。参加者35名。
啓発・広報	町広報紙に文化財防火デーの主旨を掲載、町民に防火意識の高揚を啓発。

北勢町

啓発	消防役員会で、消防団長・消防係より消防団へ、社寺等の初期消火、水利点検を行なうよう啓発。
----	--

員弁町

防火パレード	1月5日・3月9日 消防団主催で、消防車による防火、震災等の心がまえ注意を呼びかけるパレードを実施。消防用具、設備等の点検を行なう。参加者 5日 62名。9日 65名。
--------	--

津 市

消防訓練	<p>1月24日 西来寺、文化財収納庫と龍宝幼稚園を対象。参加者・関係者、園児124名。                  〃 四天王寺、本堂と四天王寺幼稚園を対象。参加者・関係者、園児135名。</p> <p>1月25日 谷川土清旧宅を対象。参加者・新町分団、住民40名。                  〃 高田本山専修寺で、消防団・婦人防の合同訓練。参加者・消防団、住職、婦人防、園児130名。観音寺本堂を対象にも実施。</p> <p>1月26日 雲出小旧校舎玄関。住民への講和も含め実施。参加者・消防団、住民32名。                  〃 神宮寺。安東分団、納所自治会、婦人防の合同訓練。参加者・安東分団員10名。                  〃 一身田町住居地域。町8自治会、橋北第3市民消防隊の合同訓練。参加者365名。</p> <p>1月27日 結城神社。本殿と事務所を対象。参加者1名。</p> <p>1月28日 阿部家住宅。消火器取扱いを含む。参加者5名。                  〃 深正寺。消火器取扱いを含む。参加者5名。</p>
立入検査	<p>1月22日 神宮寺、谷川土清旧宅、四天王寺山門、阿部家住宅。                  1月23日 結城神社、観音寺。                  1月24日 専修寺、慈智院、雲出小旧校舎玄関。</p> <p style="text-align: right;">} 消防署より建造物所有者の立入検査を行なう。</p>
防火診断	<p>1月22日 高山神社、市杵島姫神社、真教寺、蓮光院、深正寺、厚源寺。                  1月23日 上宮寺、地藏院、大宝院、唐人踊保存会、田中繁三氏宅、光善寺、大長寺、一御田神社、渡辺準一氏宅。                  1月24日 長法寺、願応寺、正源寺、中野獅子舞保存会、仲福寺</p> <p style="text-align: right;">} 消防署より防火診断及び警防調査を行なう。</p>
広報活動	<p>市政だより1月16日、2月1日号に文化財防火デーの記事を掲載し市民に文化財防火のPR。文化財所有者に防火・防災に関する注意書発送。防火訓練見学者にチラシ配布。各新聞社へ記事の依頼。</p>

一 志 町

防火点検	<p>2月10日 県指定文化財（矢頭の大杉、真盛上人誕生地、延命寺の石棺）の防火点検。</p>
------	---

白 山 町

防災説明	<p>11月7日 成願寺において、町中央公民館主催の郷土学習会と共催で実施。                  2月2日 常福寺において、町中央公民館主催の郷土学習会と共催で実施。</p>
------	--

三 雲 村

防災訓練	<p>2月3日 重要文化財永善寺内阿弥陀如来坐像他の非常持出訓練と消火訓練を実施。参加者30名。</p>
------	--

松 阪 市

防火訓練	<p>1月24日 国特別史跡本居宣長旧宅より出火想定し、各種訓練実施。通報、初期消火、タンク車放水等。訓練後初期消火訓練を実施。参加者32名。</p>
------	---

飯 南 町

防火査察	町内の文化財の所在場所の確認及び所有者、管理者への防火の諸注意を促す。
広報活動	同報無線を利用し、町内一斉に火災予防の呼びかけ。

飯 高 町

防火訓練	1月5日 大地震発生により火災発生のお想定で、町消防団、婦人会、警察が参加して、重要物件の搬出訓練、消火器点検を実施。
------	---

明 和 町

防火訓練	9月1日 文化財防火指導。参加者、消防団員、自治会役員、婦人会、学校関係者他260名。
パトロール	1月26日 広域消防明和分署職員による町内文化財パトロールと所有者への保護の呼びかけ。
広 報	1/21~1/26 有線放送、広報車による町内パトロール。

多 気 町

広報活動	町広報、有線放送により文化財防火デーの趣旨、実施内容等をPR。
点 検	郷土資料館、町内文化財について、火災の危険箇所の確認、消火栓、消火器等の点検。

大 台 町

啓 発	町文化財保護調査委員による寺院に対する仏像、古書等の防火啓発。
防火指導	1月25日 古文書、民俗資料の保管庫管理責任者への防火、搬出指導。

勢 和 村

防火訓練	1月12日 消防ポンプ基本操法訓練、消火訓練、消火器等の点検。参加者200名。
査 察	1月28日 事業所、重要文化財施設等を巡回し、防火の心がまえ、消火、搬出等指導。参加者10名。
防 火 パレード	2月5日 村内一円に防火に対する呼びかけ。参加者20名。
夜 警	12/29~12/30 年末時の防火巡回。参加者20名。
防火訓練	9月1日 地震発生を想定し防火訓練実施。参加者400名。
広 報	放送施設を利用し、異常乾燥注意予防発令時ごとに村内一円に呼びかけ。

宮 川 村

査 察	1月28日 村文化財保護委員により民俗資料館の防火チェック。参加者6名。
防災会議	1月21日 村内文化財施設の防災現状と今後の方策について話し合い。参加者5名。
啓 発	村広報紙に文化財の防災について掲載。

伊 勢 市

立入検査	1月22日	久昌寺、菫社を対象。参加者、市消防2名、中電2名、市教委1名。
	1月23日	神宮文庫、神宮徴古館・農業館、祭主職舎、林崎文庫を対象。参加者、市消防3名、中電2名、市教委2名。
	1月24日	世義寺、光明寺、寂照寺、等観寺を対象。参加者、市消防2名、中電2名、市教委1名。
立入検査 及び 防火訓練	1月25日	金剛証寺、奥の院、開山堂、の火気使用施設、電気関係の検査。参加者、市消防4名、中電2名、市教委3名。
	〃	金剛証寺本堂より出火の想定。自衛消防団による初期消火、市消防によるポンプ車等による消火訓練実施。参加者、自衛消防団10名、市消防20名、市教委他。

鳥 羽 市

立入検査	1月22日	丸山庫蔵寺、青峰山正福寺の文化財立入検査。参加者、市消防署員、市教委。
------	-------	-------------------------------------

小 俣 町

広報活動	町おしらせ版（週1回発行、町内回覧）の発行、ポスターの掲示により、文化財保護の啓もう。官舎神社独自の火災予防看板設置。	
------	---	--

玉 城 町

立入検査	1月20日	富向山田宮寺、山神山田禅寺、宮古石風呂を対象。参加者、消防署2名、中電2名、各管理者1名、町教委1名。
------	-------	---

南 勢 町

パトロール	1月24日	文化財、民俗資料館を巡視、防火施設等の点検。参加者、消防2名、文化財保護審議員、町教委2名。
防火訓練	1月26日	南勢町民俗資料館において実施。参加者、五ヶ所浦老人クラブ有志10名、文化財保護審議員、町教委2名。

阿 児 町

防火訓練	1月26日	立神薬師堂より出火の想定、重要物件の搬出、消火訓練実施。参加者、消防関係13名、地元自治会10名、町教委3名。
------	-------	---

上 野 市

防火訓練	1月26日	慶明寺においてストーブの不始末で出火、本堂に延焼の想定。消防関係、寺及び地区民が出動して防火訓練。参加者55名。
消火講習	地区民を対象に消火器の扱い方等の講習会実施。防火映画も上映。	

名 張 市

消防訓練	1月26日	杉谷神社拝殿横の空地から出火、本殿に延焼の想定。神社関係者、地区婦人防火クラブ員、地区民等による初期消火、文化財の搬出、消防団による放水訓練を実施。参加者、約80名。
------	-------	---

啓 発	市内の30件の指定文化財の所有者、管理者に防火対策の強化啓発。
-----	---------------------------------

伊 賀 町

防火訓練	1月26日 都美恵神社会館台所から出火、本殿に延焼の想定。消防団が出動し消防訓練実施。氏子総代・氏子青年を非常召集し、文化財の搬出、拝殿の延焼防止訓練実施。参加者、50名。
------	--

阿 山 町

広報活動	1/25~1/26 有線放送を通じ、文化財保護の高揚を図るPR。
パトロール 兼 査 察	9月13日 指定文化財を対象にパトロール。所有者、管理者に文化財防火デーの趣旨書を配布、管理状況等の査察。

大 山 田 村

防火訓練	1月26日 広徳寺庫裡から出火の想定。消防団による消火訓練、地区住民による文化財の搬出訓練、消火栓及び消火器の取り扱い練習。参加者、60名。
------	--

島 ケ 原 村

防災訓練	1月25日 観菩提寺で参拝者の投げ捨てタバコが原因で、本堂及び桜門に延焼の想定。消防団による消火訓練、住職の指示による文化財の搬出訓練。参加者、消防関係者、寺関係者、地域住民他。
広報活動	1/24~1/25 有線放送及び広報車で文化財防火デーの周知と文化財愛護を啓蒙。
消火講習	1月25日 消火栓の取り扱い方の実技講習会を観菩提寺において実施。

青 山 町

防火点検	1月26日 町内の指定文化財を巡回し、管理状況、消火措置、消火器等の点検。参加者、町教委、町文化財専門委員、消防署員、7名。
------	--

熊 野 市

査 察	修復工事完了の最明寺を訪問、防火対策について調査、火気取扱い、消火器設置等について注意、指導をする。参加者、文化財専門委員2名、市教委1名。
-----	--

紀 宝 町

広報活動	1/24~1/28 有線放送を使い文化財の防災について町内に呼びかける。
------	--------------------------------------

紀 和 町

広報活動	1月26日 広報無線により町内全域に防火の呼びかけ。
防火対策	1/26~1/27 指定文化財周辺の雑草刈りと整備をし防火の対策を行なう。参加者、4名。

#### 4. 文化財講習会 10月30日 ー第3回ー

第3回文化財講習会を10月30日(木)鈴鹿郡関町町民会館において開催した。この講習会は、文化財の保護及び振興の一助と資質の向上を図るため、午前は、名古屋大学小寺武久先生から「民家建築の見方・調べ方」、午後からは、文化庁記念物課花井正光調査官には「特別天然記念物カモシカ」について、また、関町教育委員会林良彦氏から「関町関宿伝統的建造物群保存地区」について事前指導を受け、三重大学菅原洋一先生とともに現地指導を受け、歴史的変遷や構造等を分析し理解を深めることができた。

#### 昭和60年度 三重県文化財講習会実施要項

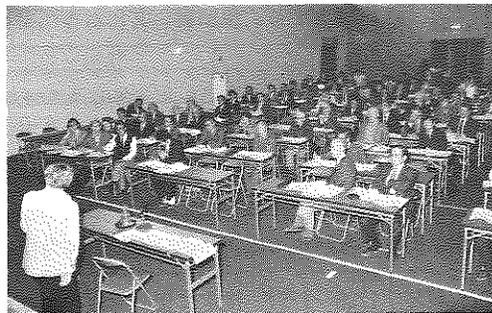
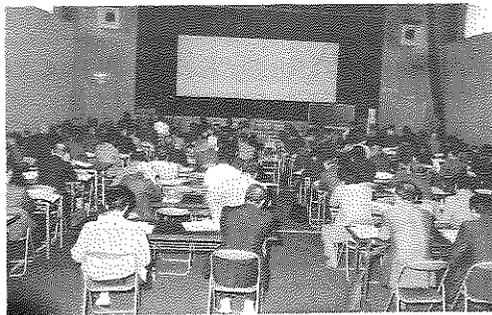
1. 目的 文化財保護に携わっている三重県文化財調査員及び市町村文化財保護審議会委員等を対象として、文化財の調査と保護に関する専門的知識と技能の研修を行ない、もって資質の向上を図るとともに文化財の保護と活用の強化に資する。
2. 主催 三重県教育委員会
3. 期日 昭和60年10月30日(木)
4. 会場 鈴鹿郡関町町民会館
5. 対象 三重県文化財調査委員、市町村文化財保護審議会委員、市町村文化財行政担当者、その他
6. 日程
 

午前	「民家建築の見方・調べ方」	名古屋大学	小寺 武久先生
講師	午後	「特別天然記念物カモシカ」	文化庁記念物課
		「関宿伝統的建造物群保存地区」現地指導	三重大学
		関町教育委員会	菅原 洋一先生
			林 良彦先生

参加者 108名

#### 教育事務所別、市町村別参加者数

- |         |  |
|---------|--|
| 北 勢 28名 | 桑名市2、四日市市1、亀山市1、<br>関町7、北勢町2、菰野町4、鈴鹿市7、大安町2、朝日町1、楠町1 |
| 中 勢 29名 | 津市4、久居市5、河芸町3、嬉野町4、白山町5、美杉村7、一志町1                    |
| 松 阪 13名 | 松阪市3、飯南町5、多気町1、飯高町1、大台町3                             |
| 南 志 16名 | 伊勢市4、度会町4、南島町2、大王町5、阿児町1                             |
| 上 野 16名 | 名張市11、上野市1、島ヶ原村1、伊賀町2、青山町1                           |
| 尾 鷲 5名  | 海山町1、紀伊長島町3、尾鷲市1                                     |
| 熊 野 1名  | 熊野市1   |



資料1

重要文化財建造物防災実態調査

この表は、文化庁文化財保護部が重要建造物所有者に昭61. 3. 31現在で調査依頼をした実態調査から、防災の部分だけを集約したものである。

調査項目		建造物名称																
		専 修 影 寺 堂	同 如 來 堂	金 本 剛 証 寺 堂	高 本 倉 神 社 殿	同 八 幡 社 本 殿	同 春 日 社 本 殿	猪 本 田 神 社 殿	射 手 三 重 塔 社 殿	町 住 井 主 家 屋	同 書 院	庫 藏 寺 本 堂	同 鎮 守 堂	地 愛 蔵 染 院 堂	国 十 津 三 重 塔 社 殿	観 本 菩 提 寺 堂	同 桜 門	大 宝 村 神 社 殿
立地	傾斜地に建っている				○	○	○											
	台地																	
地形	山上			○														
	平地	○	○															
気象	雪が多い	○	○	○										○	○	○	○	○
	雪はほとんど降らない	○	○	○														
条件	落雷が比較的多い	○	○	○														
	少ない			○														
周囲の状況	近くに消火栓がある	○	○	○														
	河川がある				○	○												
消防水利	貯水槽がある	○	○	○	○	○												
	池沼がある	○	○	○	○	○												
消防水利	消防用水利がない																	
	消防署からのきより(約・km)	1.5	1.5	15	5	5	5	10	3	2	2	10	10	0.3	0.5	0.5	0.5	3
消防水利	所要時間(約・分)	5	5	30	5	5	5	15	5	5	5	30	30	3	3	3	3	5
	周囲が焚火・喫煙禁止区域になっている	○	○															
電気	電熱器、コタツ用の配線がある			○														
	照明用の		○	○														
火気使用状況	臨時に配線することがある																	
	電気は全く使用しない																	
火気	建物内で炊事、暖房に使う																	
	宗教行事に使う	○																
消防防団	建物周辺で使用することがある																	
	内外とも使用しない				○	○	○											
消防防団	所有者等で組織している	○	○	○														
	付近の住民で組織することを検討中																	
消防防団	組織することを検討中																	
	考えていない																	
消防訓練	実施している(年・回)	1~2	1~2	2	1	1	1							1		1	1	10
	実施することを検討中																	
消防訓練	実施することを検討中																	
	考えていない																	
防火	設置している(設置年)	60		54	48	48	48	49		55	55			35		42	42	55
	点検している(年・回)			2				1						1		2	2	2
防火	設備に異常はない	○		○	○	○	○	○						○		○	○	○
	わからない	○												○				
防火	早く設置したい																	
	修理時に設置の計画がある																	
防火	設置除外の建物である																	
	消火設備として消火栓がある	○	○	○	○	○	○	○		○	○					○	○	○
防火	貯水槽がある	○	○	○	○	○										○	○	○
	可搬式ポンプがある	○	○	○	○	○										○	○	○
防火	消火器具として消火器がある	○	○	○	○	○										○	○	○
	水バケツをおく	○	○	○	○	○										○	○	○
防火	その他			放水銃	放水銃	放水銃												
	早く設置したい																	
防火	設置の予定がない																	
	設置する必要がない																	
防火	設置している(設置年)	不明			48	48	48			55	55					57	57	55
	点検している(年・回)				1	1	1											2
防火	設備に異常はない				○	○	○									○	○	○
	わからない																	
防火	早く設置したい																	
	設置の予定がない																	
防火	設置する必要がない																	
	指定建造物に居住している	○	○															
管理状況	同のある敷地内に																	
	居住していない																	
管理状況	昼夜とも巡視している																	
	昼のみ																	
管理状況	夜間のみ																	
	ほとんど巡視していない																	

## 資料2

# 県新指定文化財調査報告書

○木造薬師如来坐像

1 軀

松阪市船江町564番地

薬師寺

豊岡 益人委員、森田 利吉委員

昭60. 2. 28. 7. 9 調査

- 当寺本尊、桧材、一木造、偏袒右肩とし、左手与願印に薬壺を持ち、右手は施無畏印を結ぶ。
- 肉髻、地髪ともに高く螺髪は欠失。
- 顔の表情厳しく、肩張り、胸厚く、あご、乳、腹などのくびれは深く鋭い。
- 膝も高く厚く、美しい衣文や花文を刻む。特に左肩より肘及び腹前に至る衲衣のロープ式衣文は最も力強く、拜者を圧倒せずにはおかない。(橘寺日羅像とよく似る) 側面及び背面の衲衣も鋭い。縹波式衣文からなる。
- 全体に量感に溢れ堂々とした偉容で、貞観末期の特色が顕著である。
- 背割りがあり、縦60cm、横25cmの背板をあてる。
- 両肘より先、右耳朵に後補があり、右手第3指先等を欠く。しかし、これ等は全姿の偉感を少しも損じていない。

### ●法量

総高 83cm、 髪際高 70cm、  
面高 16cm、 面巾 30cm、  
胸巾 30cm、 肩張 44cm、  
肘張 54cm、 面奥 21cm、  
膝奥 47cm、 膝高 14cm、  
膝矧目 30cm、 膝張 74cm

- 市指定 昭和27年1月26日
- 製作時代 平安前期(貞観末期)
- 沿革 当寺は天台宗、延暦寺末。天平2年(730)の開創とも伝え、文治3年(1187)再興ともいう。承応2年(1653)4世良海上人の時、本堂等を建立了た。



県内指定文化財（昭和61年5月1日現在）

区分	国宝	建造物	絵画	彫刻	工芸品	古文書類	考古資料	歴史資料	無形文化財	民俗		特別史跡	史跡	天然記念物 特別名勝及び	名勝	名勝及び史跡	史跡及び名勝	天然記念物 名勝及び	特別天然記念物	天然記念物	及び名勝 天然記念物	伝統的建造物群	計
										有形	無形												
国指定	4	14	17	60	17	32	6	3	2	1	3	1	27	1	2	1			2	20	1		214
県指定		26	24	68	42	45	9		1	17	30		62		9		2	1		73			409
市町村指定		72	57	133	133	133	24	4	7	47	68		146		6					59		1	890
計	4	112	98	261	192	210	39	7	10	65	101	1	235	1	17	1	2	1	2	152	1	1	1,513

文化財保護事業

（表紙・国指定文化財）

（裏表紙・県指定文化財）

<p>専修寺如来堂 (保存修理)</p>	<p>金生水沼沢 植物群落 (天然記念物) (保護増殖)</p>	<p>山 白州比咩神社本殿 (白山町川口)</p>
<p>上野城跡 (保存修理)</p>	<p>八代神社 (収蔵庫建設)</p>	<p>山 白比咩神社本殿 (白山町南出)</p>
<p>関町関宿 (保存修理)</p>	<p>カモシカ食害対策 (保存対策)</p>	<p>観音堂 (志摩町和具)</p>

